

学生のみなさんへ

看護学部助教 佐藤考司 (2015.08.20)

このエッセイを読まれる方で、落語を聞いたことのある方はいらっしゃいますか？ 落語に興味がなくとも、立川談志という名前は聞いたことがあるでしょう。今回ご紹介する本「赤めだか」は、そのお弟子さんの一人で、今や「日本で最もチケットの取れない落語家」と言われている立川談春の初エッセイである。内容は師匠である立川談志との出会いや修行の日々について書かれており、談志師匠からの愛のある金言がちりばめられている。私の研究室の本棚にはコンピュータ関連や統計学関連の本が陳列しているが、唯一、数式やアルファベットが出てこない本である。そのため、本エッセイを執筆するに当たり、自動的にこの本がテーマとなった。

私がこの本と出会ったのは、2008年の頃である。インターネットの動画投稿サイトにて面白い動画を検索しているうちに、ふと落語を聞いてみたくなった。彼の落語を見つけ、瞬く間に落語の面白さに引き込まれた。そして、この本の存在を知り購入した。さすが落語家というだけあって、文章にテンポがあり気持ちよく読み進むことができた。そして、研究室の棚に置いておこうと決めさせた次の一文に出会った。

談志師匠との稽古の最中の一コマ。落語を覚えることに一生懸命になるあまり、小手先で落語を演じてしまった談春に対して

「型ができていない者が芝居をすると『型なし』になる。型がしっかりした奴がオリジナリティを押し出せば『型破り』になれる。・・・結論を云えば型をつくるには稽古しかないんだ。」

現在、学生の皆さんは看護師、介護福祉士になるべく勉学に励んでいることでしょう。講義等の中で、日本や世界で活躍する看護師・介護福祉士を知り憧れることもあるでしょう。そんな時は、ぜひ上の一文を思い出してください。目先のことで基礎をおろそかにし、「型なし」な者にならないために。

看護師・介護福祉士としてのみならず、社会人としての型を作るべく、精進の日々を送っていくことを期待します。そして、「型破り」なスーパー看護師、スーパー介護福祉士として活躍する日を楽しみに待っています。

【紹介された本】

『赤めだか』 立川談春著 扶桑社 2008.4

*現在当館には所蔵はありませんので、最寄りの公共図書館等をご利用ください。